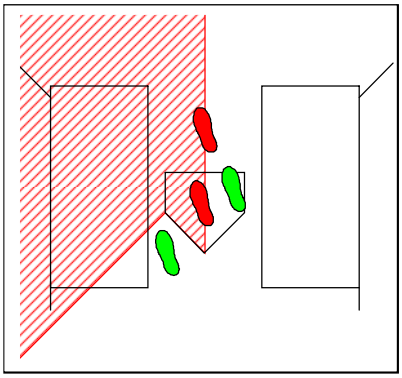
【コリジョン（衝突）ルール】

ルールブックを見てもわかりにくいこのルールについて解説します。

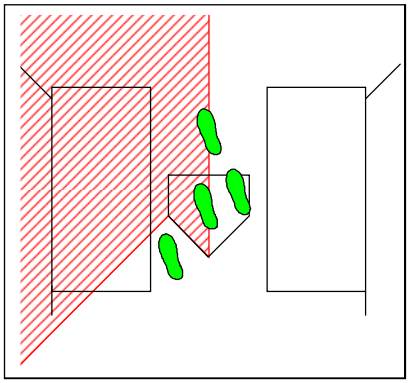
ホームベース上でのクロスプレイは野球の醍醐味でもありますが、捕手が完全にブロックしたのに走者が生還する場合があります。
野球同様ソフトボールもこのルールでは、選手の解釈があいまいで抗議の対象になることもよくあります。

ホームベース上でのプレイ状況には次の2つのケースがありますが、捕手の立ち位置によって走塁妨害（オブストラクション）となります。

＜CASE１＞　捕手がボールを持っていない。
（赤＝オブストラクション）



＜CASE２＞　捕手がボールを持っている。



このルールは、ソフトボールではまだ適用されていませんが、日本のプロ野球では2016年度から正式に適用されました。
これにより、これまで本塁でのタックルなど危険なプレーが禁止となります。
※下線部を追記しました。

1. 走者の捕手への体当たり禁止。
2. 捕手の走者へのブロックやその走路を塞ぐことの禁止。
3. 送球が逸れた場合にやむを得ず捕手が走路内に進入する場合は許されるが、走者と激しい接触を避ける努力をする。
4. 球審が悪質で危険な衝突と判断した場合は、該当選手に警告を与えるか、退場処分とする。

※※下記追記しました。

ソフトボールのルールは・・・

ルール８　走塁 ８－４項　走者に安全進塁権が与えられる場合

２．野手が走者の走塁を妨害したとき。
次の場合は走塁妨害を適用する。
（１）野手は球を持っていないとき。
（２）野手が打球の処理をしようとしていないとき。
（３）野手が空タッチをしたとき。
（４）野手が球を持って、走者を塁（ベース）から押し出そうとしたとき。

＜効果＞
走塁妨害が発生したとき（ランダウンプレイを含み）は、
（１）ディレードデッドボール。
（２）走塁を妨害された走者および他の走者は、審判員の判断により妨害がなければ達していたと思われる塁までの安全進塁権が与えられる。
（注１）走塁妨害は野手が走者に触れなくても走者の走塁に影響を与えたかどうかを審判員が判断する。
（注２）走者が塁に達しようとしているとき、**野手は塁の前縁の一部を空けなければならない。**
野手がこれに違反したため、走者が塁に触れることができなかったときは、走塁妨害が適用される。
（走塁妨害は走者が帰塁するときにも適用される）
（注３）走塁を妨害された走者は、その塁間ではアウトになることはない。この走者は次の塁に進むか、触塁した塁に戻らなければならない。ただし、走塁妨害ののちに、引き続き守備妨害が発生したときは、守備妨害を優先する。
（注４）走塁を妨害された走者は、審判員の判断により、妨害がなければ達していたと思われる塁より先に進んで触球されたときアウトになる。
（注５）「空タッチ」も走塁妨害であり、審判員の判断により退場になる場合もある。

赤文字部が現ルールです。

公益財団法人日本ソフトボール協会
オフィシャルソフトボールより引用